第２回「万葉集・明日香村」を中心とした授業づくりセミナー　概要報告

河野晋也

◇日時 2026 年 7 月 18 日（土）10：00-12：00
◇場所 万葉文化館
◇参加者
【学生】 金武、田中、榊原
【万葉文化館 】中本、榎戸
【大学教員】加藤、米田、大西、河野　　計９名

◇内容　館内のフィールドワーク



万葉文化館の館内を案内していただいた。まず中庭に降り、飛鳥池工房遺跡炉跡群復原展示を見学した。飛鳥時代の後半の工房遺跡であり、上段と下段の２つに分かれて、たくさんの炉の跡が発見された。ガラスの加工や地理区から伝わった瓦の生産の他、日本最古の銅銭である富本銭を鋳造していた場所とされている。水の流れを計算して設計されており、有害なものが流れ出ないように工夫されていたとされている。館内には、ガラス製品を製造する様子なども再現されている。



館内には、そもそも歌とは何かを考えさせるような展示、映像やクイズの他、市や工房や歌垣など古代の人々の暮らしを再現した展示が数多くある。1000 年以上前の人々の暮らしをイメージすることは子供だけでなく、大人でもなかなか難しいことであるが、こうした展示や教材の工夫によって、当時の人々の姿を想像したり思いを考えたり、また現代との共通点や違いに目を向けられるようになると思われる。

時代が変わっても、古代の人と私たちとの間には、共通する点は多くある。例えば、万葉歌に数多く詠まれる四季それぞれの花や星を美しいと感じる様子などである。館内には、自然の音や星空を体感できる空間（さやけしルーム）が設けられていたり、今も見ることができる花を当時の人がどのように捉えていたのかを紹介する展示なども多い。

今年、飛鳥・藤原の宮跡が世界遺産に登録されたことで、来館数は増加の傾向にあるとのことだった。今回は中までは入らなかったが、ガイダンスコーナーも設置され、日本の中央集権国家が成立する過程が開設されている。館内の遺跡は構成遺産に含まれているわけではないが、中庭の工房遺跡を含め、当時の遺跡を守り、次代に受け継ぐことを大切にしながら、設置されている。次回のセミナー（授業構想）では、飛鳥での世界遺産学習としての授業構想も検討できると思われる。

